

九州大学学術情報リポジトリ  
Kyushu University Institutional Repository

中村哲著述アーカイブ  
Nakamura Tetsu Digital Archive

---

## ダラエ・ヌールへの道：アフガン難民とともに

中村, 哲 著

扉～目次

<http://hdl.handle.net/2324/4772346>

---

出版情報：ダラエ・ヌールへの道：アフガン難民とともに,  
pp.1-4, 1993-11. 石風社

バージョン：初版、1993-11-30

権利関係：©Tetsu Nakamura printed in japan 1993

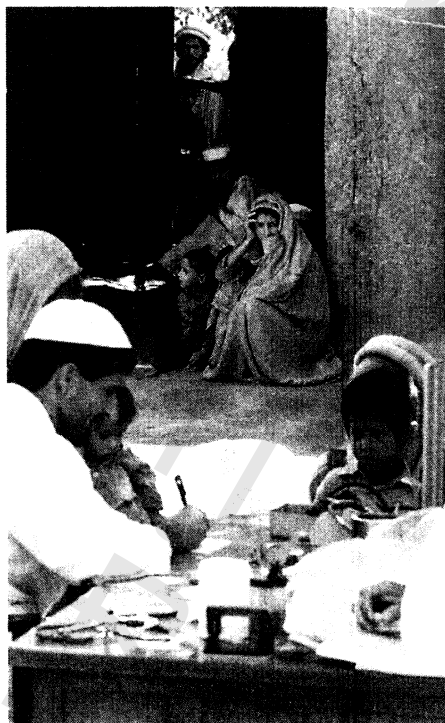
石風社より許諾を得て本文を公開しています。

公開しているPDFの印刷、複製および許可のない二次利用はおやめください。



KYUSHU UNIVERSITY

# ダフエヌールへの道



アフガン難民とともに

中村  
哲

複製・出力・二次利用禁止

ダラエ・ヌールへの道  
アフガン難民とともに  
目次

序章 よみがえる溪谷の村——ダラエ・ピーチの診療所にて 7

## I JAMS発足をめぐって

アフガン戦争——冷戦下最後の代理戦争 14

バジョウル難民キャンプ——ALS発足とキャンプの实情 21

JAMS国内診療所の下工作 31

JAMS発足 35

クナールの攻防 43

「独力補給」への決断——ACBAR参加をめぐって 51

## II JAMSの人間模様

JAMSスタッフの挫折 58

ジハード（聖戦）——あるゲリラ闘士の変貌 62

日米自動車摩擦 70

## III ダラエ・ヌールへの道

国境越え 79

カラヒシャイ村——欧米N G Oの復興援助の結末 98

メフマーン（客人） 105

コーヒスターニーの部落にて 113

深夜のP K O論議 121

#### IV アフガニスタンに診療所開設

アフガン人スタッフの闘志と苦悩 128

カイバル峠・一九九二年——帰郷 139

#### V 患者たちの光と影

物乞い——あるパシュトゥン患者の死 146

変貌——女性患者ハリマ 157

#### VI 「国際貢献論」台頭の中で

立場を超えて——ソ連軍撤退と日本政府の苦慮 168

戸惑う「人的貢献」 174

国際交流と太平洋戦争 181

天下一家?——早大探險部学生誘拐事件 192

事実と真実——ジャーナリズムの気骨 197

ペシャワール会との縁 202

日本人ボランティアの協力と挫折 213

## Ⅶ 流竄録

共に生かれるか——子供の現地教育 230

流竄録 237

「神」を語らず 245

## Ⅷ JAMSの試練

ドラエ・ピーチ——危機孕む診療所開設 271

カプールの終焉——見捨てられた都市の民衆

JAMSの危機 296

終章 溪谷の村で 305

あとがき 318